

第 34 回総合教育会議

○山口知事

令和 8 年度の当初予算については 3 本柱に教育を改めて入れまして、「唯一無二の誇り高き学校づくり」もありますし、「司書県さが」とか、あとは県立大学もそうですし、特に、改めて県立学校の体育館の空調を整備することにしました。それと、洋式トイレ化などなど、大型予算増ということになっております。

そうした大きな変化の中で、もう一つの変化が、4 月から私学の授業料無償化がよいよ始まるわけです。今回の暫定予算にも入っているということで、いよいよ本格化するわけですが、それを見越してだと思います、今年の佐賀県内の私立高校の志願者数、そして入学予定者数はかなりの数増えております。特に学校単位で大幅増の学校も何校かありまして、早速影響が出ているのかなと思います。

そして、それは佐賀県だけに留まらず、隣県の私学へ流れるということも十分考えていかなければならない事象かなと思いますので、今回改めて私立高校の授業料完全無償化を受けたこれからの公立高校というのがどうあるべきなのかといったことを深く議論させていただけたらと思っております。今日もよろしくお願ひします。

○佐保政策企画監

ありがとうございました。

それでは、会議に入ります。

本日は、意見交換と報告と案件が 2 つございます。

意見交換を 50 分、最後の 10 分で、業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について報告を行いたいと思います。

まず、私立高校の授業料完全無償化を受けたこれからの公立高校のあり方について、政策部から現状等について説明をさせていただきます。

まず、皆様、おさらいということで、今後、高校の授業料の完全無償化が行われます。平成 22 年度に公立高校の授業料が無償化されまして、私立高校等の生徒に対する就学支援金制度というのが創設されました。当初、所得制限なしで 11 万 8,800 円を上限とする就学支援金が創設され、350 万円未満世帯の場合は支給額が上乗せされている制度でございます。

一時期、私立高校生徒への就学支援金の加算が拡充されるとともに、所得制限を導入されております。910 万円を所得制限の上限とされた上で、限度額の加算がされております。

令和 7 年度には、いわゆる高校無償化の先行措置としまして、全世帯を対象とする支援金 11 万 8,800 円に対する所得制限が事実上撤廃されました。

それで、暫定予算に入っています令和 8 年度、こちらは完全に所得制限を撤廃した上で、私立高校に通う生徒の皆さんには 45 万 7,200 円、これを上限に支援金というのが支給をされるということに変わっております。

ここに書いていますが、多くの生徒にとっては、私立高校への進学というのはより大きな選択肢となる一方で、公立高校への進学希望者が減少するのではないかというのが懸念がされているところがございます。

こちらは、先ほど段階的に無償化が進められたということで、その制度の切替え費用、赤のほうで示しております、この黄色の折れ線というのが、私立高校の生徒数の割合というのを示しております。

平成 21 年度は 22.1%が私立高校の生徒でございましたけれども、徐々に右肩上がりが増えていまして、令和 7 年度は 27%まで私立高校の在籍者数の割合が増えてきております。

一方で、県外の中学校から県内の高校に入学されている方のデータも紹介したいと思います。

左のほうのグラフですけれども、県外の中学校出身者で、県内の高校に入学した人—青が県立高校、公立高校の数字で、橙色のグラフが私立高校の数字となります。

ここの赤い色の私立高校は、これも少しずつ右肩上がりに増えておりまして、ここ 5 年間は一定の水準をキープしているような感じ、300 人を超える数字になっています。

青の公立高校は、平成 21 年から令和 3 年ぐらいまでは山あり谷ありの状況ですけれども、令和 4 年度以降増えてきておりまして、令和 7 年度には 209 名が県外から佐賀県内の公立高校に入学しているということがございます。

こちらの右のグラフですけれども—この黄色のグラフですね、佐賀県内に流入をされている高校生の数字でして、緑が県外の高校へ進学している数字になります。

令和 7 年度は流入が 543 人で、流出は 443 人になっていますので、100 名のプラスになっております。ここは注目すべきポイントだと思っております。



九州各県の入試の志願状況を一覽でまとめております。

佐賀県につきましては、令和 8 年度入試は 1.00 となっておりますが、これは九州でいきますと、福岡県と大分県は 1.03 でして、九州では高いほうから 3 番目の数字になっております。

隣県ですけど、福岡県は 1.03 で一番高いですが、去年は 1.11 と、0.08 ポイント下がっております。

内容を確認してみますと、県立高校の志願者というのが、令和 7 年は 2 万 4,542 人で令和 8 年度の入試が 2 万 2,854 人ということで、1,688 人減少しています。

一方で、私立高校の志願者は令和 7 年が 4 万 2,829 人で、令和 8 年が 5 万をちょっと超える 5 万 82 人ということで、7,253 人私立の志願者が増えているということがございます。

約 7,000 人増えており、福岡県は私立の高校が約 60 校所在しているということですので学校の

多さから中学生の私立高校への関心というのが高いと考えられます。

また、福岡県全体というよりは、主に福岡地区、福岡市等の所在する高校のほうが志願者が増えているということでございます。



今回、議論するに当たって、入試のスケジュールを皆さんに共有できればということで準備をしております。

県立高校は特別選抜が2月上旬に行われておりまして、一般選抜が3月上旬に行われているというところでございます。

県内の私立高校でいきますと、早稲田佐賀、弘学館、東明館というのが12月に専願ですとか推薦入試が実施されていまして、年明けすぐに一般選抜が実施されています。

私立の6校ですが、県立高校の特別選抜前の期間に試験が行われています。福岡地区の私立高校の入試は結構遅く、2月12日ぐらいに行われているということですので、佐賀県の私立高校の入試から大体3週間後ぐらいにされています。



高校入試の志願状況でございます。令和8年度の入試です。

中学3年生の生徒数が佐賀県内で7,935人ございまして、県立中学校と私立の中高一貫などに大体進学するであろうと思われる方を除くと、~~大体~~7,061人ほどが入試を受けるのではないかと、という数字がございます。

私立の入試を志願して受けられた志願者の数が9,367人となっております。これは県外の中学生の数も含まれますけれども、令和7年度と比較すると616人増えているということでございます。

この点見ていただきますと、ここの下の6つの私立高校につきましては、同じ日に試験が行われておりまして、それと異なる早稲田佐賀、弘学館、東明館が、特に早稲田佐賀が令和7年と比較すると258名、弘学館も180名と結構大きな数字で志願者が増えております。

また、同一日に実施されているところでも、北陵高校も3桁に志願者が増えているということでございます。

この数字を見て考えられることで、県内外を問わず、これまで費用面の理由からチャレンジができなかった層が新たに申し込んだことで、両校への申込みは顕著に増加した可能性が挙げられます。

私立については以上でございます。

○甲斐教育長

公立高校の入学志願者状況、特別選抜と一般選抜、それぞれの志願者を合わせた数が5,815人ということで、昨年と比べてプラス67ですが、例年とほぼ同じぐらいです。

特別選抜が倍率は1.35倍、一般選抜1.00倍となっております。

多くの生徒が受験する一般選抜の志願状況についてですが、参考までに倍率の高い学科

を上げますと、普通科高校では佐賀北と致遠館が高い状況です。この2校というのは大体例年、高い順番で行くと上位5校に入っています。

専門学科でいきますと、今年は佐賀工業の電気科と鳥栖工業の土木科の志願倍率が高くなっておりまして、専門学科の高校については、ここは結構入れ替わりがあります。ずっと同じところが高い志願率となっている、ということではありません。

定員に満たない学校、学科につきましては、学校、学科それぞれ全体の半分程度が定員に満たしていないという状況でございます。

もう一つ、今年度新設します唐津青翔高校のeスポーツ学科ですが、全体で募集定員20名としておりましたけれども、特別選抜で3.00倍、そして、一般選抜で1.25倍という状況となっております。



ここで詳しく見ていきますけれども、特別選抜で受験する方が増えている状況で、毎年、募集人員を増やしてきております。これは「唯一無二の特色ある学校づくり」ということで、ここも増やしてきております。

令和2年と令和8年を比べると、募集人員が2.7倍になっていまして、志願者数はそれに対して2.9倍となっておりますので、設定している以上に少し志願者数が増えてきている状況です。一般選抜のほうですけれども、募集人員、志願者数ともに減ってきております。募集人員というのは、これは特別選抜と一般選抜を併せて設定していますので、こっちが増えるところは減るといった状況になります。

それで、令和2年と比べてみますと、令和2年から令和8年にかけて一般選抜の募集人員が約16%減となっております。対して、志願者数が約18%減となっておりますので、募集人員の減少よりも、志願者数の減少のほうが少し多いというふうな状況となっております。

特別選抜のところが大分増えてきていますが、これはスポーツとか文化芸術、いわゆる部活動の活動状況とか実績の部分の枠に加えて、学びで特色ある教育課程、枠もつくっており、学校のほうでも積極的に活用しまして、これを増やしてきているような状況です。

2月上旬に実施しており、受けられる学科というのが増えてきておりますので、早い時期に進路を確定したいという生徒にとってもマッチしていて、増えているのではないかなと思っております。



新たな県立高校の入試制度です。令和10年度の入学者選抜から実施します。今の中学校1年生と書いてありますが、もうすぐ年度明けなので新中学校2年生が対象になります。現行制度を新制度に変えていきます。

ポイントは3つです。分かりやすい選抜方式ということで、前期と後期の2つにしております。

それから、受験生を多面的に評価するというので、ここに方式②とありますけれども、自己表現とか、そういったところを入れまして、学びのデザイン方式を入れて、多様な制度

を勘案して、このように考えています。

もう一つは時期についてですが、現行の特別選抜の時期に募集定員の大半を選抜すると、前期選抜のほうでより多い定員を設定する方法としたいと考えております。



やはり選んでもらう、選ばれる高校になるためには、学びの中身の充実というのが大事でございます。1つ御紹介しますと、唐津青翔高校のeスポーツ学科、これは全国の県立高校、全日制で初めての学科でございます。デジタル技術を身につけて、新しい価値を創り出す人づくりの輩出としていきたいと考えております。

それからもう一つ、佐賀らしい探求学習ということで、専門家からのアドバイスが受けやすいような体制を構築していきたいと思っております。スーパーバイザーを配置いたしまして、県内の大学や企業と連携を構築していきます。探求学習アドバイザーとして、講師として招聘をしたり、あと先生たちの研修なども充実させていきます。

それから、こちらは高校生を対象にした探求強化合宿です。学校を横断的に、異なる学校の生徒同士チームを編成して、フィールドワークをしながら、ここで探求マインドスキルアップをしていきたいと考えております。

子どもたちが自ら課題を見つけて、主体的に学ぶ人材を育てていきたいと考えています。

それから、学びの環境整備につきましては、冒頭、知事からございましたように、ここに予算をつけていただきまして、SCHOOL*COOLプロジェクトと銘打ち、大型スポットクーラーを一斉導入ですとか、モデルとなる高校3校の体育館に空調整備を進めていきます。

それから、学校のトイレの洋式化というのを全県的にやっていきます。

以上です。

○佐保政策企画監

ありがとうございました。

それでは、私立高校の授業料完全無償化を受けたこれからの公立高校の在り方について意見交換をお願いいたします。

○飯盛（いさかり）委員

佐賀の場合は公立志向というのがまだ保護者、生徒が強いので、都会というか、大都会、私立学校の数が多い都道府県と比べると、まだ若干、言葉が適切かどうか、気楽な部分もあるのかなと思うんですが、実際、私立の中高に私、勤めていまして、県立高校の場合は、先生方、一般の教諭の先生方に学校経営というか、そういう視点がまだやっぱり薄いのではないかなという気がします。

管理職の先生のみが定員割れを防ぐために必死に頑張っていて、もちろん、それに応じていろんな新しい取組をやったりして動くのは先生方なんですが、能動的というかな、一般の教諭の方々。私立の場合は、いろいろな校務分掌の中に生徒募集部というのがあって、うちの場

合は週1回定期的に集まっていろいろ話し合いをしたり、それからそれぞれの部員が中学校に出向いて広報活動をしているというような現状ですから、その差というか、私立は本当に生徒が集まらなくなると自分の飯が食えないというかな、そういう危機感もやっぱりあるので、頑張りようによっては、生徒は集まる、頑張らなければ少なくなっていくという危機感を持っている者がほとんどだと思います。

だから、公立の場合は、なかなか簡単には学校はなくならないですし、そこら辺ではまだ若干甘い部分があるのかなというような気もしていますので、今の高校の先生方を見ると、10年、20年前の中学校の先生方がしていたような教科の指導のみじゃなくて、生徒の心のケアとか、特別に支援が必要な生徒への支援とか、そういった幅を広げることができるとなると、高校での生徒たちも安心してというかな、そういったことに広がっていったら、評判も上がっていくのではないかなという気がしております。

以上です。

○山口知事

ありがとうございます。

私はこの議題って自分なりに結論がよく分からないんですよ。自由意見を伺いたい。

○荒木委員

飯盛（いさかり）委員が言う、私は保護者なんですけれども、お母さん同士でお話ししたときに、公立にやっぱり行きたいという人たちがまだ一定数いらっしゃるけれども、オープンスクールとか、いろんな私立さんも見せていただいたときに、魅力が分かりやすく伝わりやすい、私立のほうがと思ったときに、そこでお金の差がなくなったら、やはり私立がいいよねということに気づき始めちゃうんじゃないかなというのは、少しこの1年受験生のお母さんとして周りを見ていたときに、少し心配をしました。

○山口知事

やっぱり全般として、県外から佐賀県に急に今増えているので、そこは公立、私立ともとても良いことかなとはまずは思う。

今回、私立もちょっと言い方が難しいけど、二極化してて、えっ、こんなに増えたんだという学校と、ちょっとまた減らしているというところが、これは何か分析、どうなんだろうね。どうなの。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

そうですね。結構そこが分かれてしまったといえば、やはりそれぞれの努力が私立の中でも出てきているのかなというのは見て分かります。

○山口知事

これはやっぱり無償化になるということで、ここはちょっとブーストしようということで頑張ったと思われたと。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

例えば、実業系の学校さんとかでも、増えたところもあれば、減ったところもあったりして、増えたところというのはそこを意識していたかどうかですが、職業教育というのはしっかり、むしろそこが自分たちの学校が向いたということに特化して、PRして打ち出したら生徒数が増えたという、それまで減ってきたような学科であったとしても、増えたということもあったりしたので、生徒募集に対する意識の違いが出てきている。

○山口知事

基本的に甲斐教育長との意見交換の中で私が申し上げているのは、県立高校だって唯一無二をやっているわけだけど、私立学校的な感覚で、今まではとにかく全部が同じように、何か大人事異動をやっているようなところってどうしてもあったんだけど、同じように県立高校だからと。そこは個性があっていいよねということで、大分そこは県立高校の中でも非常に評判がよくなったところと厳しいところと。

○荒木委員

個性の差が私立だと大きくもって出せるけれども、県立だとやっぱり県立というのが最初にあって、伊万里地区の方が鳥栖高校に行くというのは、基本的にはあり得ない、考えにくいわけですから、やっぱりこういう県立の普通科というベースがあって、その上に特徴を重ねていくけれども、私立はもう明らかにスポーツだったり、勉学だったり、ちょっと不登校ぎみの子だったり、特色をより出しやすいというのはあるのかなとはちょっと思いました。

○溝上委員

出しやすいという話と、あともう一つ、先ほど飯盛（いさかり）さんがおっしゃったプロモーション係が私立はいて、自分の学校のよさとか特徴を発信する担当がいると。

○山口知事

県立は。

○甲斐教育長

県立も今それぞれの学校の力が上がるようにブラッシュアップをしているところです。予算をつけて研修をやっている。

○山口知事

専門家というのがいない。

○甲斐教育長

専門家というのがいないですけど。

○山口知事

県外から県立高校は倍に増えたりしているのは、多少営業しているから。

○甲斐教育長

説明会とかを出かけて行ってやっています。

一つの高校だけじゃなくて、地区で固まって出店して、いろんな高校のお話をして聞いてもらうようにしています。例えば、唐津地区だったら唐津地区で集まって福岡に行くとか。

○山口知事

恐らく関西圏とか、いわゆる都市圏は私立に行きやすくなるんですよ。だって、同じ授業料だったら、かえって私立が良いと思う人も結構多くて、先ほどから言っているように、佐賀県はまだそうになっていない、この状況、まだなっていないから分からないな、この先は。この状況の中で、ある程度先を見据えながら、いいところ取りして公立もやっていくという形がなんかあって。

○溝上委員

多分長くやられてきた方って、多分、佐賀県の高校を選ぶ人って本当に増えている、が当たっているんだと思うんですよ。多分、楽観的なパターンで見るとか、悲観的なパターンで見るとか多分大きく違うと思うのですが、多分、現段階で成功しているんだろうねみたいな話は、先ほどの教育委員会でも話題に挙がって、ただ、じゃ、あと僕ら40代があって、10年後に7,000人の子供たちが2,000人減って5,000人になったときに、この配分ってどうなるんだろうねみたいな話は少し出ていて、そこを見たときにはどんなことが県立学校と私立学校の特色の違いを出すとか、伝え方とかいうことをひよっとしたら見える、やっていくべきことがあるのかもしれないねみたいな話は出ていました。今はすごくうまくいっているんじゃないかなと。

○山口知事

入り口として、今、何となくスタートダッシュが効いているから、方向性として悪くないと。ただ、確かにおっしゃるように、これからもっと（子どもの数が）減ったときに。唐津青翔だってさ、全然欠員だらけだったのが、eスポーツでわーっと来てさ、生徒たちから知

事、もっと早くやってほしかったよとか言われてさ。だから、結構やりようではあるんだけど、そこはね。なので、やっぱり高校も特徴を見せるという。

○溝上委員

そうですね、僕はどうしても企業の人なので、見方として、例えば、学校の経営をもし考えたら、定員を減らさないと、私立学校だったら。当たり前ですけど、5,000人の子たちが今2,000人私立に行っているわけですけど、ずっと2,000人をキープするというのは多分私立は考えるだろうなと思うと、やっぱり県立が総体的に割合が変わっていくみたいなことは起きてくるのかなというのは。

○山口知事

そうね、私立は維持できているもんね。むしろ、今年は増えるからさ。

○山口知事

それとね、あれは今度変えるでしょう。試験日程、これで大分変わるのかな。

○甲斐教育長

私学の入試日程があります。

○山口知事

(投影資料を指しながら)

ゆっくり待ち構えている感じなので。これはどんどん、佐賀の私立って早いんだよね。さっきこの辺が多いというのは、かなりお受験勉強しているから、この辺で受ける人たちが結構受けに来ている、ここ。試験慣れするためのいろんなのがあって。だから、必ずしもこれが本当にここに入るかどうかあんまりリンクしていないという感じがするけど、でも、どっちにしても早くやっているというのが。これは早めるんだよね。

○甲斐教育長

そうです。今の特別選抜の時期になります。

○山口知事

だから、僕らの時代と違って、早く決める人がどんどん増えていて。

○前田政策部長

年内も結構今あるんですよ。

○甲斐教育長

そうですね。私立の専願とって、公立は受けませんという、そちらも増えてきている。

○荒木委員

1月の受験のタイミングでは、私立を滑り止めのように位置づけして、3月を待つという層も、1月に受かっちゃうと嬉しくなっちゃう。だから、1回学校の雰囲気を見てよかったねとか言ったりとか、お金を入金したりとかすると、何となくもうそのまま1月の雰囲気です（私立高校への入学を決めてしまう）。

○甲斐教育長

今まではちょっと授業料がネックになっていたところが、背中を押される感じになって。

○前田政策部長

そして、これは前期と後期で分けられますけど、その配分というか、割合はどんな感じ。

○甲斐教育長

前期で80%以上、80から100%と思っています。後期に20%、残っている分という。それとあと前期で定員に達しなかったところというのは足して後期に募集をします。

○山口知事

今まで佐賀県ってさ、公立はあんまり枠を取らないでよというルールがあって、要は私立をフォローしていたところもあったけど、もう今から先ってさ、どうなのか全く見えない。

○飯盛（いさかり）委員

何年か県立が早まると、私立も恐らくもっと早まる。

○山口知事

もっと早まるよね。

○椛島教育振興課長

今はそうなんですけど、だんだん、県立のほうが逆に早めていて、多分それに合わせて、また福岡の私立さんも動かれると思います。

○甲斐教育長

どんどん早まっていくということでしょうか。

○飯盛（いさかり）委員

中学生が勉強しなくなります。2月3月に。

○溝上委員

就職活動のときみたい。

○加藤委員

どこも早まっているんですよ。大学受験も早まっているし、専願もそうですし、ずっとどんどん

○飯盛（いさかり）委員

みんな早く決めて楽したいんですよ。

○加藤委員

そう。それが今の子どもたちの特徴。早く決まって、早く楽したいという感じになります。

○山口知事

これを（入試日程を）変えるのが再来年から。

○甲斐教育長

そうです。再来年の実施です。

○加藤委員

これは10年

○甲斐教育長

9年度に実施する。令和10年2月に実施する。特別選抜も今増やしてきております。

○加藤委員

方式①から③までありますが、これは全部。

○甲斐教育長

方式①は全部の学校がまず選択。2つ以上の方式を選択してくださいだから、①と②とか、①と③とか、①、②、③全部やると、高校によってそこは設計をしていただく、早めにお知らせをするようにします。

○前田政策部長

今、特別選抜は全校ではないですよ。

○甲斐教育長

全校ではないです。

○前田政策部長

10校ぐらいですか。

○甲斐教育長

いや、ほぼほぼ全校です。

○甲斐教育長

(特別選抜を実施していない学校は、) 佐賀西高と唐津東と致遠館、3つだけです。

○山口知事

あと、実業系の高校は結構人気が出てきたよね、今。

○甲斐教育長

はい。その良さというのもアピール

○山口知事

やっぱり普通科(の学習内容は)はAIに置き換えられがちだから、これからの世の中。ここに1個(得意分野を)持っているだけで大分違うからさ、人でしかできない仕事って。

○甲斐教育長

ここについて、やっぱり専門高校を知ってもらいたいということで、今、中学校の先生がどうしても普通科の高校を出た方が多いので、中学校のほうに出かけて行って専門高校の魅力というのを伝えるようにして、産業教育フェアもありますし、ちょうどいい時期なので、今取り組んでいるところです。

○山口知事

先生も大変だね。普通校の先生だけじゃなくて、1つぐらいやっぱり技術をね。

○加藤委員

県立高校は異動があるじゃないですか。だけど、私立は異動がないから、方向性が1つにまとめられる。だから、異動があると、また別のこともやらなくちゃいけないとか、本当にやりたいことがやれないとか、いろいろあると思うんですよね。でも、私は外から見ていて、専門高校はとても頑張っているなと思います。本当に素晴らしいというか、高校生の力が。だから、そのアピールをもっと上手にしたらいんじゃないかなと思うんですよね。

○山口知事

明らかに佐賀県の実業系高校は総体的にかなりの、日本1位、2位を争うぐらのいい学校だと思う。

○加藤委員

いや、とても素晴らしい。だから、もっとPR。その仕方だけだと思います。

○飯盛（いいもり委員）

生徒たちを見ていても生き生きと

○山口知事

しているもんね。

○加藤委員

している。

○飯盛（いいもり委員）

さっきちょっと話が出たんですが、保護者向けに、高校を選ぶときの選択はどんな理由で選んでいますかというアンケートを取ったりとか、あるいは入学してきた生徒たち、1年生の最初の段階でどうしてこの学校を選びましたかというアンケートを取ってみると、昔ながらのやっぱり普通高校を大学受験のために選んだという意識が強いのか、それとも、随分職業系とか、そういったことにも広まってきているのかというのも分かるのかなという気がしますね。

○加藤委員

素晴らしいですね。

○甲斐教育長

本当に県立大学の検討に係る専門家チームのサポートもあって、すごく今盛り上がって

きています。

○山口知事

あとは、僕は言えないけど、流れからすると、あんまり県立高校同士の異動は少なくなると思うんですよ。やっぱり個性を出そうとすると、逆に言えば人事異動のいいところを生かしてくれればいいと思うし、やっぱ本人ももうその学校で煮詰まっちゃったとか、それは異動させてあげたりとか、それはいいところなので、基本的に無理くりやる必要も

○前田政策部長

異動のための異動

○山口知事

異動のための異動はする必要ないよね。

○加藤委員

そうなる、先生たちもすごく楽になると思います。

○山口知事

そう。やっぱり県庁でもデザインですごい輝いている人を無理やり徴税のところに出したりしないもんね。みんながこうなるので、本人も含めて。

○甲斐教育長

そこはすごい

○山口知事

方向性とすればね。

○甲斐教育長

逆に本県の方角性としては。

○山口知事

そしたら、飯盛（いいもり）さん、これはどうなるんだろう。これは再来年に改革するわけでしょう。そしたら、来年の方角性、来年また動くよね、これは。どうなるのかね。私立がまた伸びていくのか。

○飯盛（いいもり）委員

さっきの話に対して、定員割れすることが悪じゃないけど、悪いみたいな印象が、何か皆さんも含めて、公立はやっぱり公立のよさ、例えば、職業高校。私もこの間、牛津高校で3年生の就職が決まったり進学が決まった子たちに対して講演してきたんですけど、もらったアンケートとかを読むと、すごい丁寧に育てられたというか、教育を受けてきた子たちの文章だったんです。この後、志を高く持って、こういうことをやりたいですときらきら輝いた文章で、顔もきらきら輝いていたので、そういう決して私立に劣らない教育を県立もやっているんですけど、その発信とか広報にもう少しやっぱり、さっきも出ていたように。

○山口知事

そうだね。ちょっと不慣れで、今あんまりしていないよね、学校ごとのPR。

○飯盛（いいもり委員）

公立と私立と一緒に学校説明会をするようになって何年目かな。

○甲斐教育長

もう大分なりますね。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

5年経ちます。

○飯盛（いいもり委員）

ですよ。最初に見に行ったんですけど、ずっと一緒に教育委員会の方と回っていて、やっぱりぼろっと聞こえてきたのが、やっぱり私立はプレゼン上手ですねというのが、見せ方、そういうところはやっぱり県立もどんどん盗むじゃないですけど、学んで、自分の唯一無二の学校のPRをどんどんやっていくと、そのよさというか、聞きに来る生徒がもっと増えるんじゃないかなと。

○甲斐教育長

そこは見習っていかないといけないと思います。

あともう一つ、定員割れというのがすごく人気がないというふうに扱われるとちょっとつらくて、定員というのは設定しぐあいの部分がありますので、きちきちに定員を管理すれば1倍は超えますので、地域に学校を残していくことが大切だと、そこに特別選抜でいっぱい来ている。一般選抜はあまり来ないので割れるんだけど、特別選抜で選ばれてきているという学校もあるので、その受け止め方をどうアピールしていくかなというところは悩ましいところではあります。

地域に学校を残す、学科を残すというのも公立の大きな役割だと思っていますので、本当に定員割れイコール悪みたいになると、ちょっと厳しい。

○山口知事

そうだよな。だから、高校の在り方も変わっていくかもね。俺たちは小学校のときは人がわんさかいたからさ、中学校までは義務教育で、そこから後は競争させるというのがおのずとあれがあったけど、ただ、無理してそうさせる必要もないし、それぞれ生徒たち一人一人が輝けば。

○甲斐教育長

小規模でも輝いているというところも。

○山口知事

それ聞いたけど、厳木とか太良とかむちゃくちゃいいじゃん。いや、大成功だよ。でも、人気は増えているよ。

○甲斐教育長

人気が高いです。

○飯盛（いいもり委員）

あとやっぱり学校の努力でもなかなか難しい部分もあるなと思ったのと、何人かの校長先生と話をしている、交通手段が減るじゃないけど、電車のダイヤが少なくなると、なかなか通学がしにくいというところも少なからず原因になってくるんじゃないかなと。1本逃したら行けない、だから、別のところを考える人もいなくはないのかなと話を聞いていました。

○山口知事

そうだね、それは大人が支えていかないとね。

今、県立高校の先生方も大変だ。楽しいこともあるけど、今までのような“もんだ症候群”じゃいけないところもあるからね。

○甲斐教育長

そうです、一緒になって

○山口知事

でも、何か学校ごとに自分の学校をいい学校にしようという雰囲気が出てきた。もともと

あるんだろうけど。

○甲斐教育長

そうですね。唯一無二を入れてから、そういうところの意識というのは生きていると思います。大きく変えるときはやっぱり難しくて、唐津青翔高校はよく変わったなと思います。変わったなというか、こっちは最初からやる気だったんですけど、それをやろうとするときはやっぱり大変ですよ、新しいことを入れようとする。

○椛島教育振興課長

なので、一番

○甲斐教育長

そこをよく学校と一体となって向かっていくことができたので。

○山口知事

この10年間、高校再編とか、俺は「さ」の字も言ったことないし、必ず輝く道があるはずだと思っているんですよ。やっぱりせつかく伝統のあるところだから、生きるいい学校が見つかるはずだから、必ず、先生の精鋭が固まれば。

○荒木委員

唐津青翔とかが県外の入学者も多いというふうに従っていて、そうやって、最初はeスポーツ科かと思ったんだけど、それをしっかり県外の人が見てくれて佐賀に来てくれるというのもすごい変革の成功事例だと思います。

○山口知事

S S P 構想も功を奏していて、何か自然と増えた形になってきたもんね。だから、県外から来ていただくというのは、県立高校は全然オーケーだし、昔ほど私立もプレッシャーをかけてこないと思うんだよね。私立は私立で結構今いいもんな。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

いいですね。

○山口知事

県立は県立で今、伸び代があるし、私立は当然無償化で伸び代があると思うから、いい形で両方が伸びていけばいい。

○飯盛（いいもり委員）

今、有田工業で焼物の生徒がやっぱり自分は東京にいたら、全然目標がなくて暮らしていたと思うけど、有田に来て焼物と出会って、自分の生きがいみたいなのを見つけたのでと言うので、また佐賀で活躍してくれるようにすごく期待をしています。

○山口知事

この前表敬に来た（吉野ヶ里町出身で）小川島に島留学している子はめちゃくちゃいけていたし。

○山口知事

だから、何かそういう子が増えてくると、めっちゃ楽しみだよ。意外とそうやって県外の子っていい感じで佐賀の価値を見いだしてくれているというか。

○飯盛（いいもり委員）

それこそ幸せランキングが上がっていく。

○加藤委員

そうそう。

○山口知事

今、星生学園とかはどうですか、大体同じぐらいですか。

○加藤委員

いや、人気がないです。来年度からは無償化になるから、ここからはちょっと盛り返すかなと思って。

○飯盛（いさかり委員）

今年の入試のときに、早稲田佐賀さんと弘学館さんは佐賀県内のもとの私立よりも授業料が高いでしょう、毎月の額が。だから、無償化になるんだったら、少し出してでもというふうな感じですかね。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

余剰分が出ます。

○山口知事

この学校は特殊だよ。だって、東京の子がすごく受験するわけで。だから、僕らも支援

は、早稲田佐賀だけは県内を増やしたらうちの県の支援が上がるようになる。ほかの私立は、県外が来ると増額しているんだけど、早稲田さんは逆で、佐賀県内の子を入れてよというシステムなので、ちょっと増えているね、今少しね。

だから、あとは、弘学館と東明館が幾らか増えたからな。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

そうですね。

○山口知事

そこはうまく成果として。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

はい。

○山口知事

北陵とか大分増えたよな。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

はい。

○山口知事

北陵は人気あるよね。

○徳安私立中高・専修学校支援室長

はい。

○山口知事

だから、さっきおっしゃった営業感覚がすごく実は私立間の中で差が出てきていて。

○加藤委員

やっぱりコマーシャルというか、広報をするときには、私は唯一無二とかいっぱいされているでしょう。何というのかな、幅が広くて、でも、やっていることはすごく素晴らしいじゃないですか。だけど、インパクトのある県立高校の良さ3つとか、みたいなやり方だともう少し分かりやすくなるんじゃないかと。

○山口知事

学校の先生もデザインとか、うちの講座とかをやってみると、すごいセンスが磨かれるというか、あれって思うよ、いろいろ。

○江島教育危機管理・広報総括監

去年2回

○甲斐教育長

やりましたね、教育委員会

○江島教育危機管理・広報総括監

やったときに思ったんですけど、私立のホームページと県立のホームページを並べてみると歴然なんです。それはテクニックじゃなくて、県立はどうしても学校通信というか、保護者向けの発信が多いんですけど、私立は明らかに中学3年生狙いの内容になっている。

○山口知事

チェックすると分かってんだよな。

○江島教育危機管理・広報総括監

完全にそこは色合いも完全に違います。

○荒木委員

オープンスクールに行ったら、私立は学生さんが中学生に向けてインスタグラムを自分たちがやっているからフォローしてくださいって、高校生が中学生にアピールをしているという構図が、多分、県立だと先生が先生にとかだと思うんですけど、その矢印がすごいなと思って見ていました。

○甲斐教育長

私学は高校生たちがインスタとかをやってくれて

○山口知事

それは、失敗してもいいからさ、全然さ。本当思うよ、失敗したら、じゃ、今度こうやって直そうねって、みんなどうしようかって、それがすごい成長の過程なのに、ちゃんと形どおりやろうって、な、俺、国スポだって失敗してもいいって言ったのにさ。だから本当

○甲斐教育長

だから、今は結構、式典は生徒たちに任せていて、本当に、やっているのをまた見てもらわなきゃいけない。そのところを。

○佐保政策企画監

せっかく盛り上がっているところですが、次の業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について、教育長のほうからお願いいたします。

○甲斐教育長

給特法の改正が去年行われました。そのときに一番話題になったのが教員の処遇改善で、教職調整額の引上げとかあったのですが、それと併せて、学校における働き方改革の一層の推進を進めていくということで、「働きやすさ」と「働きがい」の両立を図るということが大事になってきます。この業務量管理・健康確保措置実施計画というのは、県とか市、町の教育委員会が、自分のところが設置する学校に対して計画を策定します。4月1日から施策とか事業実施をしていきますということです。

策定した計画の内容ですとか、毎年度の実施状況を公表していきます。それで、総合教育会議に報告をしていくという流れになります。



位置づけですけれども、今、県の施策方針と教育大綱の理念と、そういったところを具体的な目標とか具体的な事業等を整理したものが、教育施設実施計画であったり、女性の活躍推進の事業や目標を公立学校特定事業主行動計画で定めたりしています。

この中から、教員の働き方改革に関する取組に特化して、この業務管理・健康確保措置実施計画を整理、というふうにしております。

実施期間は、4年間です。

数値目標を定めます。

対象校は、県立学校になります。

対象職員は、教育職員ということで主に教員になります。



ここから目標3つ定めて取り組んでいきます。

まず1つ目です。

これは時間外在校等時間、いわゆる正規の時間以外に学校にいる時間ですね。それが1か月45時間以下、及び1年間が360時間以下の教育職員の割合を100パーセントにすることを目指してまいります。

現状を申し上げますと、月45時間超過者の割合は減ってはきていますけれども、まだ令和6年度で15.7%いらっしゃいます。これをゼロにするということです。



2つ目が、時間外在校等時間の1か月平均時間、平均で30時間程度とすることを目指します。先ほどの年間360時間を12で割りますと30時間となりますので、これもやっていきます。

今、県立学校で全体としては30時間以内に収まっていますが、全日制の普通科、そして中学校ではまだ超えております。しっかりこのところを改善していきたいと思っております。



あともう一つ、3つ目の目標です。年次有休休暇の取得日数ですけれども、14日以上を目指していきます。

現状、令和5年に全体としては超えたのですが、ちょっとまだ下がってきておりますので、しっかり休みやすい環境づくりというのを整えていきたいというふうに思っております。

子どもたちがよりよい学びを得るためには、いかに先生方が生き生きと働いていただくというのが大切ですので、しっかり可能性のある施策を実施、取組を進めていきたいというふうに思っております。

○山口知事

そうか、有休か。

これは、先生ってどんな時にお休みを取っているんですか。

○飯盛（いさかり）委員

長期休み。

○山口知事

そしたら、今の高校生とか中学生とかは、「今日、先生は有休」とかしゃべるわけね。

いや、僕の時代はほら、だから、なかったんだよ。だから、すごく新鮮だったの、今。あつていいと全然、もちろん問題ないんだけど、そんな感じ。

○甲斐教育長

うちが、取りやすいようにということで、30分単位で取れるようにしているので、その点伸び悩むというところも実はあります。よそは半日単位だったり、1日単位だったりとかするので。でも、いろんな用事にフレキシブルに対応できるから、だからプラスアルファでもっと休みやすい環境を整えていくというのが大事かなと。

○山口知事

じゃ、実際はなかなか、キャスターさんがさ、夏休みで10日間いないとか、ああいうふ

うにはなかなかできない。

○飯盛（いさかり）委員

平日、授業があっているときの教員の有休というのは、ほとんどいうかな、子どもさんの病気とか、入学式とか、卒業式とか、そういったことが多いような気がします。

○山口知事

じゃ、夏休みとか

○飯盛（いさかり）委員

休暇に。

○山口知事

そんな感じ。じゃ、変わんないんだね、そこは何もな、昔と。

○甲斐教育長

それと、学校の閉庁日とかも設けたりしてきたので、ちょっとよりよい取り方ができる仕組みをつくっていきたいというふうに思っています。

○山口知事

それって、やっぱりこれに大きく議論するべき。これは報告。

○佐保政策企画監

報告です。

○甲斐教育長

報告ですね。しっかりやっていって、また実施状況というのをまたこちらで御報告をさせていただきます。

○佐保政策企画監

あと2分ほどございます。

○山口知事

だから、本当にそういう意味では、本当に動いているね、教育現場って、今ね。

○前田政策部長

変革のときです、今まさに。

○山口知事

いや、eスポーツはよかったね、うまくはまったね。

ほかにもあるはずだよ。

○溝上委員

あると思います。絶対あると思います。

○山口知事

教えてちょうだいよ。

あと、最近また女子寮を造ったり、寮を増やすというのはいいじゃないですか。それこそあれだよ、県の職員寮を改装するんだっけ。

○前田政策部長

もともと教職員の、高木瀬の教職員寮が2棟ありましたので。

○山口知事

いいじゃん。まだあるんじゃない、教職員寮の余っているの。

○甲斐教育長

いいえ、ないです。あの立派な物件は優良物件はあれで。

○山口知事

今、駅の北側はどんどん地価が上がっちゃってさ、もうすぐで南を逆転する。

○甲斐教育長

うちは唐津の職員宿所を使わせていただいております。

○山口知事

そうね。やっぱり再利用、結構得意技になってきたね。

○前田政策部長

はい、そうですね。遊休資産を有効に。

○山口知事

あとは先生のなり手というのは、いい感じですか。

○甲斐教育長

そうですね、そのところもしっかりやっていかないといけないと思っていました。社会人の方とか、いろいろ工夫しながら開拓していきたいと思っていますし、割と、だから教育学部を出た学生さんというのが教員試験とかを受けてくださっているの

○山口知事

佐大の人って結構入ってくれたりしているの。

○甲斐教育長

結構多いですね。しっかり受けてくださって

○山口知事

それはうれしいね。

○甲斐教育長

はい。ありがたいなと思って。

○甲斐教育長

県内の佐賀大学さん、西九州大学さん、佐賀女子短期大学の2年間で免許取れますので、そういったところでしっかり。

○飯盛（いいかり）委員

今度、初任者研修または開校式で。

○甲斐教育長

はい、よろしくお願いします。

○山口知事

もう先生にかかっているからね、地域ってさ。やっぱり未来への投資だからさ、そういう意味で。本当に楽しみしかないんですよ、そこさえうまくやっていけば。

○佐保政策企画監

それでは、以上をもちまして第34回の佐賀県総合教育会議を終了いたします。